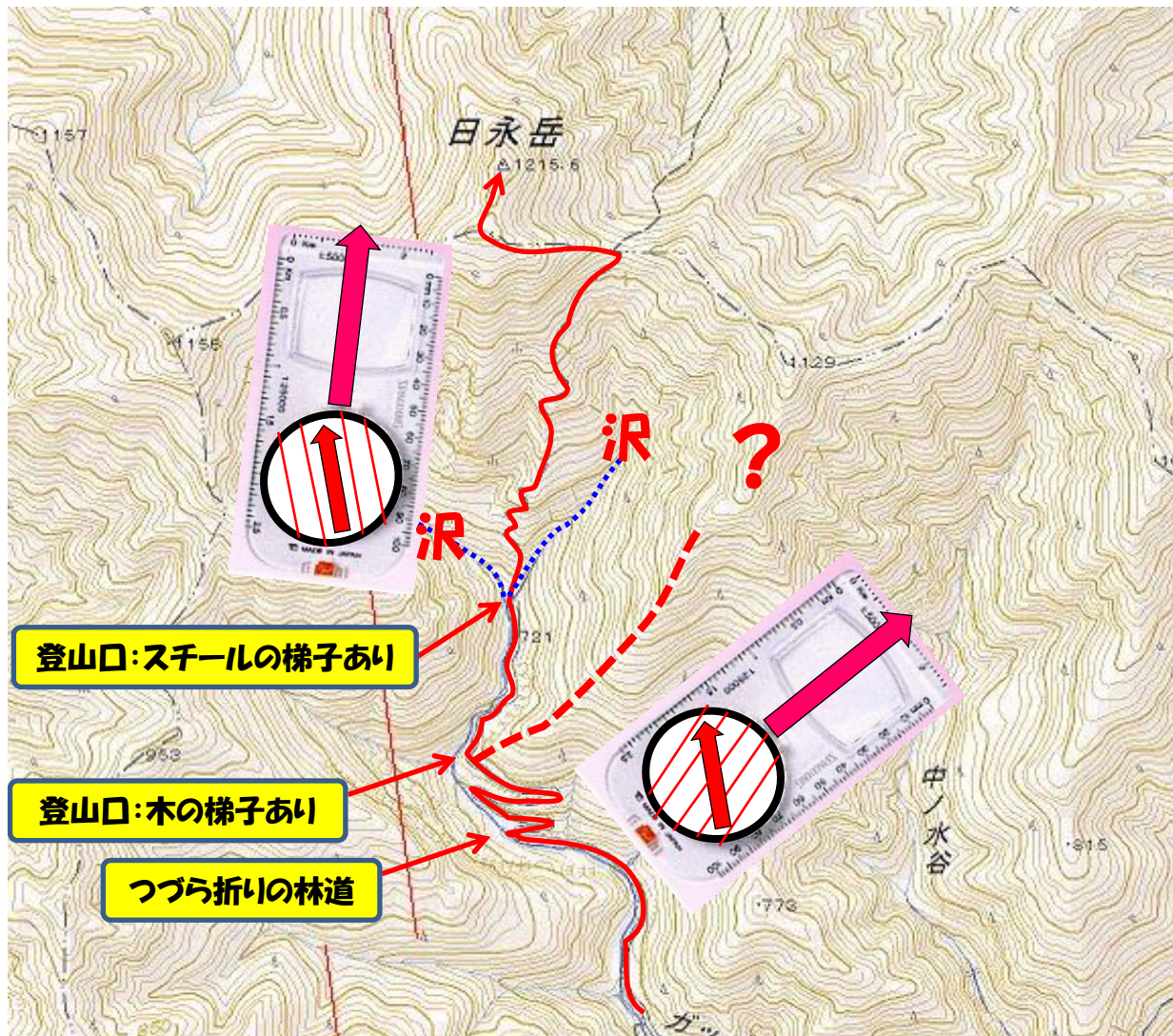


日永岳：道迷い(2013年6月)

登山のルート情報をネットで行き、①登山口まで林道を1時間弱歩く。②登山口にハシゴがある。③尾根を急登する。④登山道はそんなに整備されていない。という情報を得た。地図は、ネットで見つけた誰かの山行記の簡易地図を持参した。林道を歩いて行くと、ハシゴが出てきたので、登山口と思い登る。途中で道が無くなったが、情報でも道は整備されていないと記憶にあり、そのまま進む。完全に道迷いと思い引き返す時には、今来た道も分からず、下山できずに遭難するかと思った。



解説

最近の山行は、ネットで情報を仕入れて登山する方も多いと思う。私もそのうちの一人だ。しかしながら、地図は必ず国土地理院の地図を持参したい。

さて、現在位置を確定する場合には、複数の情報で確定してほしい。例えば、

登山口は、①つづら折りで登った林道から〇〇m先だ。②沢の分岐の合流点から、左右の沢の真ん中の小さな尾根っぽいところ(登り口は斜面ととらえた方がよいだろう)に登る。③登る尾根の進行方向をコンパスで確かめる。

というように複数の情報で確定したい。

次に、途中で正解ルートには大きな反射板があることを情報として仕入れており、その反射板が隣の尾根にあった。この時点でルートを間違えていることに気づいていたのだが、道迷いの心理は、不思議だ。「なんとかなるだろう」というもう一人の自分が存在している。完全に道が無くなっても、「正解ルートが隣に見えるから・・・」という理論でさらに進んでいる。引き返すきっかけとなった心の心理は、「これ以上進んだら、ヤバイ」という危険信号だった。しかし、この危険信号は、すでに危険地域に突入していることがほとんどである。「心・技・体」。この言葉は、読図にも通じる言葉である。